

今月の題字  
吉田 覚さん

(前橋市鼻毛石)

赤城駅駅長の吉田さんは上電勤務歴50年の大ベテラン。駅のトイレ掃除の時に吉田さんからいただく温かいねぎらいの言葉と温かいお茶が寒さを忘れさせてくれます。

# 虹の架橋



大間々の風景を絵はがきに！  
「三方良し」の会が計画中  
「三方良し」の会では大間々の古い街並みや高津戸峡、ながめ余興場などを描いた絵はがきの制作を計画中です。(四月完成予定)  
原画は、全国各地の水彩絵はがきを手がけている前橋の筑井孝子先生。町の魅力が筑井先生の筆で生き生きと描かれています。



「三方良し」の会は、近江商人の商いの精神である「売り手良し、買い手良し、世間良し」の三方良しを後世に伝えるために活動している団体です。大間々は江戸時代に、酒造りや醤油醸造にたけた近江商人が六軒も店を開き、町を発展させてきました。足利屋前の岡直三郎商店は天明七年(一七八七)に近江商人の岡忠兵衛が大間々へ来て店を開きました。  
大間々には、新宇商店をはじめ岡商店や登録有形文化財の野口住宅など土蔵の蔵がたくさんあり、町の風景の特徴になっています。絵はがきの発行を機に、町の魅力を改めて見直したいと思います。



小耳にはさんだ

いい話  
(文責・菊) 283

## 『手が二本あるのは』

「拔萃のつゞり」という冊子が毎年、(株)クマヒラさんから贈られてきます。創業者の熊平源蔵さんが社会貢献の一環で、珠玉のエッセイや文章を冊子にして、昭和六年から無償配布を始め、今年も四十五万部を全国の団体や個人に寄贈しました。その中に「表彰ということ」と題する感動的な話がありました。  
毎月、福祉施設に五〇〇〇円のおカネを三十五年間も送り続けた女性がいました。彼女は二歳の時に母親が病死。施設に預

虹の架橋 ↑ 検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

## 世界一小さな 足利屋 トイレ美術館

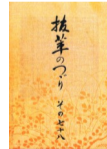


須永麻子さん『遠い眼差し』  
今月の絵 ≡ 一八三 ≡

大間々の須永麻子さんが描いた二枚の日本画を見せていただきました。そのうちの一枚は十三間堂に安置されている国宝・迦楼羅王(かろうろう)像を模写したものです。麻子さんが初めて描いたという仏様の目に惹かれました。この絵を描きながらお父様の眼差しを思い出されていたという話を聞いていっそう心が揺さぶられました。もう一枚の日本画は、新里町の桜を描いたもの。桜の幹の質感が麻子さんの繊細なタッチで描かれています。今月は足利屋の休憩コーナーに二枚の絵を並べて飾っています。

やがて彼女は過労で倒れ、市役所に医療費助成を頼みましたが認められませんでした。でも窓口の職員は「力不足でごめん」と自分の牛乳を一本差し出してくれました。  
その後、彼女は新聞配達を始めました。ある日、新聞で親のない子の施設が経営難と知り、名前を伏せて五〇〇〇円を送りました。以来善意の送金は三十五年続きました。  
それを知った市が表彰したいと言ってきたとき彼女は「私は昔、タイ焼きを頂いたとき決心したんです。一つの手は自分と家族のために、もう一つの手は人様のために使おうと。表彰するなら私に牛

乳をくれた人やネクタイを買ってくれた人を表彰してください」と表彰を辞退したそうです。  
小倉くめさんの「手が二本あるのは」という詩に、「手が二本あり、足が二本あり、目も耳も二つずつついているのは、もうひとり誰かのお手伝いをするためです。(中略)人間同士が本気で助け合えばみんなが幸せに生きられて、どんなことでも解決できるよ。に、神様は二本の手と二本の足と二つずつの目と耳を与えてくださったんです」という一節がありました。



## 靖ちゃん日記

二月十八日(月)  
やっちゃんの似顔絵提供…ひさかさん  
群馬県乳牛改良協会の酪農婦人を対象にした講演を頼まれた。瀬戸が原で酪農をしている協会顧問の石原さんからの紹介だった。前橋間屋町のプラザスワンに熱女が六十人も集まっていた。演題は「虹の架橋くやっちゃん日記と小耳にはさんだいい話」。事前に「やっちゃん日記」の下ネタ編を全員に配っていた。「小耳にはさんだいい話」の感動的な場面を紹介していると急に目の前のふたりの女性が肩を震わせていた。感動で涙をこらえているのかと思っただけ、「やっちゃん日記」の下ネタを読んで笑いをこらえていた。講演の最後に夫婦円満の「愛の三原則」を紹介した。①ありかとうをためらわずに言う。②おめねを恐れずに言う。③愛してるを隠れずに言う。うちへ帰って「愛してる」なんて言えば、「熱いもあるの？」と言われそう。熱いとはとくに冷めてるよ。と言えば夫婦の危機になる。

第二八四号は四月一日(月)発行予定です。

我が家の玄関前の椿は毎年たくさんの花を咲かせます。うっすらと雪をかぶった真紅の花と濃い緑色の葉のコントラストは自然が織りなす芸術作品です。落ちたばかりの椿を拾い集めて湯船に浮かべ「椿風呂」と称してもうひとつの春を楽しみます。  
桜散る、梅はこぼれる、菊は舞う、牡丹は崩れる、椿は落ちる。花の終わりを日本語は見事に表現していると感心させられます。  
夏目漱石の晩年の句に「落椿重ね合ひたる涅槃かな」という傑作があります。安らぎの境地は意外と身近なところにあるようです。

